

東北大学 教養教育特別セミナー



TOHOKU
UNIVERSITY

学問にとって 「役に立つ」とは いかなることか

日時

平成29年

4月10日(月)

13:30~15:30 [受付開始 12:30]

場所

東北大学百周年記念会館

川内萩ホール

● 開会挨拶

里見 進 東北大学総長

● 話題提供

● なぜ建築には歴史学もあるのか

五十嵐 太郎 本学工学研究科教授

● 複数の「メガネ」を持つために

内田 麻理香 著述家/東京大学大学院交流研究員(学外招待)

● 学問と社会:開発経済学と地域研究の場合

米倉 等 本学教養教育院総長特命教授

● パネリスト

五十嵐 太郎 [建築史・意匠論]

内田 麻理香 [サイエンスコミュニケーション]

米倉 等 [開発経済学・地域研究]

教養教育院総長特命教授

野家 啓一 [哲学]、吉野 博 [建築環境工学]、

座小田 豊 [哲学]、宮岡 礼子 [微分幾何学]

会場の皆さん

● 閉会挨拶

花輪 公雄 理事、高度教養教育・学生支援機構長、
教養教育院長 [海洋物理学]

● 司会

山口 隆美 教養教育院総長特命教授 [生体医工学]





東北大学教養教育特別セミナー

学問にとって 「役に立つ」とは いかなることか

昨年(2016)ノーベル医学・生理学賞を受賞した大隅良典博士は、受賞後の記者会見で「『役に立つ』という言葉が社会をダメにしていると思う」と述べ、基礎科学の重要性を強調されました。問題は「役に立つ」という言葉がイノベーションと結びつけられ、市場価値の有無と同一視されているところにあります。このセミナーでは、学問にとって「役に立つ」とはいかなることかを、各分野を代表する方々を話題提供者に迎えて、皆さんと一緒に考えていきたいと思います。そもそも「教養」とは「人間形成(Bildung)」にほかならず、目先の効果や利益を追い求めることではありません。「役に立つ」の意味を掘り下げることが「教養」の大切な役割だと言えるでしょう。

東北大学は、高度な専門性と分野を超えた鳥瞰力を駆使して新しい価値を創出する若者を世に送り出すため、教養教育の充実を核とする教育改革に取り組んでいます。

この特別セミナーに過去に参加した新入生からは、討論が刺激になった、今までの考え方が変わった、などの感想や意見が数多く寄せられました。

皆さんの積極的な参加と討論を期待しています。